

京都大学人文科学研究所共同研究実績・活動報告書

(4年計画の1年目)

1. 研究課題

『玉燭宝典』研究

A Study on Yuzhu Baodian

2. 研究代表者氏名

古勝 隆一

KOGACHI, Ryuichi

3. 研究期間

2023年4月-2027年3月(1年目)

4. 研究目的

隋の学者、杜台卿(とだいけい)の著作『玉燭宝典(ぎょくしょくほうてん)』は、中国の年中行事を総合的にまとめた著作であり、中国思想史・文化史研究に資する非常に豊富な引用文と情報を具備している。また、日本の年中行事にも、大きな影響を与える著作としても知られる。同書の重要性・貴重性はよく認識されているものの、いまだ学術的な利用に耐える整理がなされていない現状にある。本研究は、日本の南北朝時代に書写された古写本(前田育徳会尊経閣文庫蔵)の『玉燭宝典』を適切に整理し、本文研究に基づき詳しい注釈を施す作業を通じ、この貴重な資料の広く利用可能なものとして提供することを目的とする。また同書は、単なる年中行事書であるのみならず、隋代までに存在した既存資料を組み合わせで作られた編纂物であり、中国で「類書」と呼ばれるものと共通の書物史的背景を有する。『玉燭宝典』は、どのような編纂思想に基づいて編纂されたのか、これについてもあわせて明らかにしたい。

Yuzhu Baodian 玉燭宝典, a work by the Sui Dynasty scholar Du Taiqing 杜台卿, is a comprehensive compilation of Chinese annual events, and contains a great wealth of quotations and information that contributes to the study of the history of Chinese thought and culture. It is also known as a work that has had a great influence on Japanese annual events. Although the importance and preciousness of this book are well recognized, it has yet to be organized in a way that would allow it to be used academically. The purpose of this study is to provide a widely accessible version of this valuable material by properly arranging and annotating a manuscript of Yuzhu Baodian copied in the 14th century Japan (owned by the Maeda Ikutokukai, Sonkēkaku Bunko).

5. 本年度の研究実施状況

本年度は、本研究班にとって第一年目であり、また、本研究班は訳注の形式を取らないため、前半期においてはさまざまな角度から『玉燭宝典』に検討を加えた。それにより、書写された文字をどのように研究し、どのように電子化してゆくのかについて大体的方針を立てることができ、また日本に伝承された漢籍の取り扱いについて、基本的な認識を得ることができた。さらに後半期において、巻一（全十一巻のうち）の大部分を読解することができた。同書に引用された漢籍（伝存文献および佚書）について、担当者が資料を作成し、詳しく検討した。

6. 本年度の研究実施内容

- 2023-04-18 本研究班の趣旨説明、および今後の進め方 司会 古勝隆一
2023-05-16 『玉燭宝典』前田本の用字をめぐって 発表者 古勝隆一
2023-06-20 『玉燭宝典』テキストデータのTEIによる構築 発表者 白須裕之
2023-07-18 『玉燭宝典』をめぐる日本の事情に関する先行研究および日本の歳時記に引用された『玉燭宝典』 発表者 重田みち 京都芸術大学・通信教育部
2023-10-24 『玉燭宝典』序を読む 発表者 道坂昭廣 人間・環境学研究科
2023-11-21 『玉燭宝典』巻一を読む① 発表者 田尻健太 文学研究科
2023-12-19 『玉燭宝典』巻一を読む② 発表者 永田知之
2024-01-16 『玉燭宝典』巻一を読む③ 発表者 藤井律之
2024-02-20 『玉燭宝典』巻一を読む④ 発表者 富嘉吟 お茶の水女子大学・基幹研究院
2024-03-19 『玉燭宝典』巻一を読む⑤ 発表者 魏星 人間・環境学研究科

7. 共同研究会に関連した公表実績

なし

8. 研究班員

所内

古勝隆一、永田知之、倉本尚徳、藤井律之、白須裕之、楊維公

学内

道坂昭廣(人間・環境学研究科)、魏星(人間・環境学研究科)、福谷彬(人間・環境学研究科)、成田健太郎(文学研究科)、田尻健太(文学研究科)、王歆(文学研究科)

学外

内山直樹(千葉大学・文学部)、竹元規人(福岡教育大学・教育学部)、新田元規(徳島大学・総合学部)、王孫涵之(弘前大学・人文社会科学部)、富嘉吟(お茶の水女子大学・基幹研究院)、白石将人(三重大学・人文学部)、陳佑真(帝京大学・文学部)、重田みち(京都芸術大学・通信教育部)、山口智弘(駒澤大学・文学部)、李弘喆(長春師範大学)

9. 共同利用・共同研究の参加状況

区分	機関数 (必須)	受入人数					延べ人数				
		総計	海外研究者	若手研究者 (40歳未満)	若手研究者 (35歳以下)	大学院生	総計	海外研究者	若手研究者 (40歳未満)	若手研究者 (35歳以下)	大学院生
			(内女性)	(内女性)	(内女性)	(内女性)		(内女性)	(内女性)	(内女性)	(内女性)
人文研所属 (内女性)	1	7	2	1	1	0	64	14	10	10	0
京大内 (人文研を除く) (内女性)	2	7	3	5	3	4	61	27	46	28	36
国立大学 (内女性)	7	7	2	3	2	1	46	17	22	13	5
公立大学 (内女性)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
私立大学 (内女性)	4	4	0	1	1	0	22	0	8	8	0
大学共同利用機関法人 (内女性)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
独立行政法人等公的研究機関 (内女性)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
民間機関 (内女性)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
外国機関 (内女性)	2	2	2	1	1	1	14	14	8	8	8
その他 ※ (内女性)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	16	27	9	11	8	6	207	72	94	67	49
		(6)	(5)	(4)	(2)	(3)	(48)	(38)	(34)	(17)	(25)

※「その他」の区分受入がある場合
具体的な所属等名称を記載：例) 高校教員
無所属の場合は機関数0とカウントし、この欄の記載不要

10. 本年度 共同利用・共同研究を活用して発表された論文数

	共同利用・共同研究による成果として発表された論文数			
		うち国際学術誌掲載論文数		
①人文研に所属する者のみの論文(単著・共著)		10		1
②人文研に所属する者と人文研以外の国内の機関に所属する者の論文(共著)	0	(0)	0	(0)
③人文研以外の国内の機関に所属する者のみの論文(単著・共著)	0		0	
④人文研を含む国内の機関に所属する者と国外の機関に所属する者の論文(共著)	0	(0)	0	(0)
⑤国外の機関に所属する者のみの論文(単著・共著)	0		0	

本年度発表されたインパクトファクターを用いることが適当ではない分野等

	雑誌名	掲載 論文数	掲載 年月	論文名	発表者名
1	情報の科学と技術 Vol.73 No.5	1	R5.5	日本の書籍目録に占める漢籍の位置—江戸時代以前の書目に注目して—	永田知之
2	中国文化 81	1	R5.6	時代を超えた共同製作——「顔含碑」の成立について——	陳錦清
3	鏡仙 737	1	R5.9	《難波梅》作能の背景———称光天皇即位の予兆と足利義持賛美の能か	重田みち
4	中国典籍与文化 127	1	R5.10	重論『毛詩草木鳥獸虫魚疏』作者之名	王孫涵之
5	日本中国学会報 75	1	R5.10	『講周易疏論家義記』に見える「義家」について	古勝隆一
6	中国文学報 97	1	R5.10	『管錐編』「文賦」訳注(三)	成田健太郎
7	Studies in Chinese Religions, Volume 9, Issue 2	1	R5.11	Suzuki Daisetsu's and Hisamatsu Shin'ichi's discussions on East Asian arts, dramatic art and 'Zen'	重田みち
8	中国学の近代的展開と日中交渉	1	R5.12	余嘉錫の章学誠理解—継承と批判	古勝隆一
9	中国学の近代的展開と日中交渉	1	R5.12	十九世紀中国の知識人が見た章学誠とその言説——史論家・思想家への道	永田知之
10	中国書画研究集刊 2	1	R5.12	顔真卿書法的接受及其転折	成田健太郎 著、徐潔茜 訳

11	人間・環境学 32	1	R5.12	庾信の碑誌の源流について——「郢州都督蕭子昭碑銘」との関連を中心に——	陳錦清
12	人間社会文化研究 31	1	R5.12	萬斯同『廟制圖考』の歴代廟制論 ——世代関係基準論への批判を中心として	新田元規
13	海峡人文学刊 12	1	R5.12	和刻本『板橋雜記』的刊印及意義	楊維公
14	集刊東洋学	1	R6.1	劉炫の『論語』学：智周『法華經玄贊撰釈』所引『論語述議』をめぐって	王孫涵之
15	中国思想史研究 45	1	R6.3	『發公羊墨守』『箴左氏膏肓』『釋穀梁廢疾』に見える鄭玄の經書解釋	田尻健太
16	敦煌写本研究年報 18	1	R6.3	「表状箋啓書儀」試論 ——形成の過程及び日本の古往来との比較	永田知之
17	敦煌写本研究年報 18	1	R6.3	『趙志集』三題	富嘉吟
18	日本漢文学研究 19	1	R6.3	「威奈大村墓誌」における参考書物 ——『語対』系敦煌古類書を間接に利用した可能性——	陳錦清
19	「日本の伝統文化」を問い直す	1	R6.3	「日本は写本文化、中国は印本文化」という二項対立を問い直す	王孫涵之
20	「日本の伝統文化」を問い直す	1	R6.3	松崎慊堂の和習重視をめぐって	古勝隆一
21	「日本の伝統文化」を問い直す	1	R6.3	松崎鶴雄が考えた古代の歌声——伝統「漢学」の『詩經』解釈を超えて	陳佑真

22	「日本の伝統文化」を問い直す	1	R6.3	日本書道史の語りを支えた日本風・中国風言説と伝統観：戦後版平凡社『書道全集』日本巻総説を例として	成田健太郎
23	「日本の伝統文化」を問い直す	1	R6.3	明治の儒教的伝統と二つの国民観—井上毅と中江兆民に注目して—	福谷彬
24	敦煌写本研究年報 18	1	R6.3	『趙志集』三題	富嘉吟
25	暴力のありか：中国古代軍事史の多角的検討	1	R6.3	南北朝時代における仏教と軍事：僧伝の検討	古勝隆一
26	「見える」ものや「見えない」ものをあらわす——東アジアの思想・文物・芸術	1	R6.3	后稷は天に配せられたのか：『詩』大雅「生民」から『孝経』へ	古勝隆一
27	「見える」ものや「見えない」ものをあらわす——東アジアの思想・文物・芸術	1	R6.3	太極殿および大極殿をめぐる文学作品四篇訳注	古勝隆一
28	「見える」ものや「見えない」ものをあらわす——東アジアの思想・文物・芸術	1	R6.3	幽霊能におけるまぼろし——〈幻〉と〈見える—見えない〉の歴史と変遷	重田みち
29	「見える」ものや「見えない」ものをあらわす——東アジアの思想・文物・芸術	1	R6.3	道学における周惇頤顕彰と『太極図説』への注目	福谷彬

11. 本年度共同利用・共同研究による成果として発行した研究書

	研究書の名称	編著者名	発行年月	出版社名	国際共著
1	中国学の近代的展開と日中交渉	陶徳民・吾妻重二・永田知之	R5.12	勉誠社	
2	風姿花伝研究	重田みち	R6.2	臨川書店	
3	毘沙門堂蔵 篆隸文体	仲村康太郎・成田健太郎	R6.2	臨川書店	
4	「日本の伝統文化」を問い直す	重田みち	R6.3	臨川書店	

5	三蘇蜀学の研究——北宋士大夫による儒家經典解釈の展開	陳佑真	R6.3	京都大学学術出版会	
---	----------------------------	-----	------	-----------	--

12. 博士学位を取得した学生の数

	人数
博士学位を取得した学生の数	1 (学内1)

13. 費目の 30%を超える大幅な変更があった場合の変更理由なし

14. 次年度の研究実施計画

令和6年度(第二年目)は、『玉燭宝典』巻一、および巻二、巻三につき、班員全員で検討を加える予定である。その前提とし、第一年度に蓄積された知見を整理して、今後の研究班の進め方および資料作成の方針を吟味することとしたい。そのため、前半の数回を利用し、第一年度に明らかになった様々な問題点(たとえば、佚書の整理の仕方や、伝存文献との本文比較の方針など)を検討する方法を確認したい。その方針が立ったのち、『玉燭宝典』の読解・資料作成・討議を重ね、同書の研究を進展させたい。

15. 研究成果公表計画および今後の展開等

令和6年度(第二年目)においては、『玉燭宝典』に関する、様々な角度からの問題を明確化し、分析し、その結果を札記の形式で記述し、それを『東方学報』に掲載することを目指す。また、『玉燭宝典』のTEI準拠データを部分的に公開することを目指す。